

4-1

病気の理解

認知症ケア

もう一度考えよう、認知症ケアに終わりは無い。

アルツハイマー型認知症を正しく理解し、ケアの向上を目指す

特別養護老人ホーム 扇

発表者：介護主任 横山 聡子	共同研究者：介護主任 伊勢 博英
所在地：東京都足立区扇1-52-23	
TEL：03-3856-1199	E-mail：oogi@seifuukai.or.jp
FAX：03-3856-1711	URL：http://www.seifuukai.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人 聖風会が運営する特別養護老人ホームです。平成5年4月に開所し、特養76床、ショートステイ4床、デイサービスセンター、ケアマネジメントセンター、地域包括支援センター、ヘルパーステーションが併設されています。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>長年に渡りアルツハイマー型認知症の方のケアを行ってきたが、現在その方の対応に行き詰まっている状況。</p> <p>○アルツハイマー型認知症を正しく理解する ○昔からの生活歴を知り「らしさ」を失わない生活援助 ○視力障害、難聴、下肢筋力低下がある為、どのような対応によって安心して過ごせるのか、不穩による転倒事故の防止や現在の対応を振り返り、今後の対応について検討。</p> <p>〈具体的な取り組み〉</p> <p>○認知症についての勉強会を開き、職員の知識を深めケアに生かす取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・自分達を振り返る 今までの対応は良かったの？ アルツハイマー病って何？・アルツハイマー型認知症についての勉強会の開催・今後の対応策の検討 <p>○施設生活が長いため、過去のケース記録を読み返し、その人を知る取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・入所前のことについて家族から情報を得る・昔からの性格、好みを知る・気持ちの変化、これまでの職員の対応を深く知る <p>○落ち着かない時の対応</p> <ul style="list-style-type: none">・不安要因を探る 訴えの傾聴、体調変化の観察（発熱や便秘など）	<ul style="list-style-type: none">・落ち着ける環境や状況を見つける・転倒事故を防ぐ 声かけや付き添い、できる限り希望に沿った対応をする 居室内の環境整備 離床センサー、チェアセンサーの使用 等 <p>なお、倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束している。</p> <p>〈活動の成果と評価〉</p> <p>○振り返りを行ったことで、自分達がどの程度病気への理解があるのか知ることができた。 勉強会を行い、認知症について深く知ることで、職員の意識も向上した。</p> <p>○ご家族の話と過去の記録を読み返し入所前後のご本人を知る事で、今後の対応策を検討できた。</p> <p>○傾聴や声かけにより安心感をもってもらえた。</p> <p>○環境を変えることで、気分が落ちつくこともあった。</p> <p>○便秘との関連が見えてきた。</p> <p>○改めて認知症の方とご家族の思いを考えるよいきっかけとなった。</p> <p>〈今後の課題〉</p> <p>○状態の変化に合わせた適切な対応</p>
---	--

【メモ欄】